



《情念》 1990年

郷土作家シリーズⅧ

# 猪風来

縄文スパイラルアート



《春の女神 秋の女神》  
2011年

猪風来(1947-)は、広島県福山市に生まれ、昭和51(1976)年頃から縄文土器復元を志し、千葉県加倉利貝塚博物館土器づくり同好会に参加、縄文野焼き技法を復活させました。昭和61(1986)年からは北海道に移住し、窪穴式住居をアトリエに、20年におよぶ自給自足の縄文暮らしと制作活動を展開。その中で創造的開眼をなし「縄文造形は大自然の精神の波動を造形したもので、多視点・多時間・多次元の造形法であり且つ人類史的根源美である」ことを解き明かし確信を得ます。この時期に縄文野焼き作品の代表作「生命のシリーズ」「情念シリーズ」「森羅万象シリーズ」「土夢華シリーズ」を発表するなど、現代縄文芸術の創始者としての地位を確立しました。

平成17(2005)年からはその活動拠点を新見市法曹に移し、猪風来美術館開館し館長に就任。さらに地元に伝わる法曹焼を150年ぶりに復活。法曹焼陶磁器技法と縄文造形文様世界を融合させた新たな作品群「大霊峰シリーズ」などを創作。これらの作品は英国の陶芸専門誌「SERAMIC REVIEW」にも掲載され、英国セインズベリー日本藝術研究所のサイモン・ケイナー博士から「驚くほど美しい陶芸作品を創造する猪風来は、太古の縄文土器が現代においても重要な意義をもつことを自覚した最も優れたアーティストである。」と紹介されるなど世界でも高く評価されています。

本展ではおおらかで力強い圧倒的な猪風来流の縄文造形文様を駆使した野焼き作品から「虚空へ」「土夢華シリーズ」「情念」「縄文赤漆作品」を、また新たな境地を切りひらいた「大霊峰シリーズ」「縄文アールヌーボーシリーズ」「彩色縄文文様画」など多数展示し、猪風来の縄文スパイラル世界を紹介します。



《花の雫》  
～大地の雫シリーズ～  
2010年



《湧き立つ花の精霊》  
～縄文アール・ヌーヴォーシリーズ～  
2012年



《縄文赤漆塗土偶》  
2000年

《虚空へ1》1995年



《彩色縄文文様画》 2004-2013年

《霊峰・大山》  
～大霊峰シリーズ～ 2010年



**新見美術館** 〒718-0017 岡山県新見市西方361  
 NIIMI MUSEUM OF ART TEL・FAX (0867) 72-7851  
<http://www.city.niimi.okayama.jp/usr/art/>